

1 事業内容等

教育活動区分	⑦地域におけるにぎわいの創出
教育活動テーマ	地域住民との協働活動による地域の活性化
連携する市町	島根県浜田市
連携する企業・団体等	浜田市役所、浜田市内企業

2 活動の目的

2年次の総合的な探究の時間では、地域や社会と関わる研究課題テーマを設定し、その解決に向けて探究活動を行う。商品開発やイベント開催など、解決のためのアプローチの仕方は様々であるが、地域の方々に実際に話を聞き、より地域の実態を踏まえた探究活動につながるようにすることが目的である。

3 活動の内容

1年次の様々な活動を通じて自分の進路や興味関心について理解を深めた上で、2年次の地域の企業や官公庁から招いた職員たちの話を聞き、地域の抱える問題について考えた。その後、興味・関心や目指す方向性の近い生徒同士で4人程度のチームを作り、フィールドワークに出かけて、地域の実態調査や住民からの聞き取りを行った。その地域の強みを生かした商品開発やイベント開催によって、地域の活性化を目指した。以下に、6つのチームの活動について紹介する。

(1) 『県内における小学校の教育課題にアタックする』チーム

小学生を対象に、簡易カイロ実験、アイデア工作体験、数学クイズ、紙飛行機コンテストの4つのブースを設け、思考力を鍛えたり、理系教科を好きになってもらえるように工夫したりした。

イベント実施後のアンケートによると、理系科目について楽しいと感じた小学生が多かった。企画した高校生も、人に教えることの難しさや工夫の仕方について学ぶことができたようであった。将来、教職の道を考えている生徒にとっては、教育の楽しさだけでなく、やりがいなども感じることもできたようであった。

(2) 『フィッシュバーガー』チーム

浜田市の特産品である「バトウ」の魚を使用し、魚をおいしく食べてもらえるような商品の開発を探究した。パンやご飯をバンズにし、ソースを試しながら模索した。

最初は、バトウのフライに合うソースを考案し、周囲の人に試食をしてもらいながら、ベストなソースを作り上げた。また、パン生地のバンズだけでなく、ライスバーガーにもチャレンジした。少しずつ形になってきているので、3月（今後）は地元の企業の方と、商品化に向けて打ち合わせをし、多くの人に食べてもらえるような取り組みを引き続き行っていく。

(3) 『患者を減らす』チーム

地元の病院を訪ね、看護師さんが抱える課題を調査し、医師と看護師の不足の現状を知った。そして、患者を減らすために生活習慣病の解消について探究し、身の回りの食品の塩分濃度について調べた。

モール法を用いた塩分濃度分析を行うプランを立てた。細かい濃度計算の仕方について、今後も検討していく必要性があるため、引き続き精度の高い実験になるよう、まずは計画を立てたい。

(4) 『浜田市の活性化・ごみ問題』チーム

地元の地域活性化をベースにプロジェクトを考えており、地域に出向くと、商店街や近くの川が汚くなっていることに気づき、まずはゴミ箱の設置により、クリーンアップ活動をしたいと考え活動した。

市役所の方々にご協力いただき、ゴミ箱の設置場所やゴミ箱の形状について考案した。しかしながら、設置後に考えられる課題について検討を重ねている段階であるため、今後、検証方法も考えつつ、ゴミ箱を設置する。

(5) 『旭梨ふるさと納税返礼品』チーム

浜田市の知名度アップや活性化を目標にし、地元の食材である旭町の梨を使い、企業や市役所のスタッフと連携して返礼品のアイデア出しをした。少しではあるが、実際に試作した。

返礼品として、旭の梨を用いた商品の候補を挙げ、企業の方々に提示し、どこまで実装化されるのかは今後の活動次第である。ジャムを試作したが、味が濃く、保存期間も短かったので、どのように改善していくのか要検討である。

(6) 『浜田の福祉』チーム

浜田市の高齢者の方々による交流の場を企画した。1回目は、茶話会形式で実施し、2回目は他グループが考案した献立による料理教室を開催した。

参加して下さった高齢者の方々からは、高校生との交流ができてうれしいとの声をいただいた。2回目の料理教室では、他グループの栄養に関するチームと協力し、健康を考慮した献立で料理することができ、喜んでおられた。

(7) 『リハビリ』チーム

グループメンバー全員が運動部に所属しており、地域のリハビリに関する専門学校の先生にご意見いただきながら、リハビリに関する知識をまとめた。また、ケガを未然に防ぐ方法もまとめ、高校生を対象に、まとめた内容を発表し、啓蒙した。

高校生を対象にした発表であったので、発表後に部活を予定した運動部の生徒にとっては刺激になっていた。今後の活動として、高校生対象から、地域の子どもたちに伝えていきたいと考えている。

(8) 『白血病と骨髄バンク』チーム

医療や人体について関心を抱いているメンバーによる探究で、骨髄移植や骨髄バンクに関する講演会に参加し、その内容をまとめたり、パンフレットにしたりして、啓蒙活動を行った。

高校生たちにとって、骨髄移植や骨髄バンクは他人ごとではないという実感を持たせることができたようであった。今後の予定としては、地域の方々へ現状と正しい知識を提供していきたい。

4 活動の成果

今年度の普通科の2年生は127名で、上記の6チーム以外に約30のチームがそれぞれでテーマを設定して、探究活動に取り組んだ。やはりと言うべきか、課題の設定に苦勞しているチームが多い印象だったが、その後の情報の収集、整理・分析は各チームで主体的に取り組み、まとめ・表現活動である発表会でスライドを用いた発表をすることができた。今後の課題としては、「問いを立てる力」を養うために、普段の教科学習に探究的な活動を取り入れることと、効果検証をする適切な方法について考える力を育成することが挙げられる。

一方で、活動を紹介した上記3のチームの中には、浜田市が実施した「HAMADA 協働 CHALLENGE」という地元特産品を活用した商品開発やイベント企画などの地域活性化案を発表するイベントに参加したチームもあった。このイベントへの参加をきっかけとして、その後の商品開発の支援をいただくきっかけを得るなど、教員や魅力化コ

ーディネーターの伴走のもとで、うまく自走につながった好事例を見ることができた。

また、上記3のチームのうち、(1)の『県内における小学校の教育課題にアタックする』チームと(2)の『フィッシュバーガー』チームは、島根県内の高等学校及び特別支援学校高等部の生徒が探究学習の学びを共有し合うイベントである「しまね探究フェスタ2025」に本校の代表として参加し、立派な発表を行った。他校の発表から知ることができた、探究的な学習の新たな視点や手法を本校の他の生徒にも共有することを期待したい。

※活動の様子

